

環境中期計画「エコ・アクションプラン2020」 2020年度環境活動と実績

木資源の活用

| 環境目的 | 中期目標(2020年) | 2020年度目標 | 2020年度実施計画(具体的な内容・方法等) | 2020年度の実績 |
|--|--------------------------------|---|---|---|
| 【資材調達】 合法伐採木材の調達を徹底し、持続可能な森林資源調達を推進します。 | 合法性に関する社内調達基準達成率100%の維持 | 資源調達ガイドラインの遵守 ・合法性の社内基準適合率の把握 | ①クリーンウッド法※事業者登録 ※「合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律」の通称 ②取引先への取扱いアイテム合法性証明書類の提出依頼 | ・クリーンウッド法に定める第2種登録木材関連事業者登録実施。 2019年6月登録完了。 ・取引先に対し「資材調達ガイドライン」に基づく合法性社内適合率の確認を行い、主要構造材において適合率100%を満たしていることを確認した。 |
| | | 国産材の有効活用 ・構造材への利用率の向上 | ①国産材供給可能エリアの拡大 ②構造材における利用状況の把握 | ・九州エリア、関西エリアにおいて構造材(主にスタッド)における国産ランバーの利用促進を図った。 |
| 【資源の有効活用】 産業廃棄物のゼロエミッション化を目指します。 | 住宅のライフサイクルにおけるゼロエミッション化達成率100% | ライフサイクルゼロミッションの把握と向上 ・2020年度ライフサイクルゼロエミッション化達成率100%を目指し、各施策を推進。 | ①各拠点別に四半期毎の集計結果を社内開示 ②現場分別の徹底策を継続実施 | ・ライフサイクルゼロエミッション率:88% |
| | | 木質資源の再利用の状況把握と推進 ・2020年度マテリアル・リサイクル率90%を目指し、各施策を推進。 | ①マテリアルリサイクル業者(有価取引業者)の開拓を継続実施 | ・マテリアル・リサイクル率:73% |
| | | 産業廃棄物総排出量の削減 ・2020年度達成目標(2016年度排出量水準の維持)に向けて各施策の推進。(MHC工場) | ①産廃処理業者からバイオマス処理業者等への転換推進。 ②再利用可能品の回収ルールの継続。 | ・4.7%減[基準年(2016)比] |
| | | ・2020年度達成目標(棟あたり排出量を2015年度比20%削減)に向けて各施策を推進。(新築工事) | ①各拠点別に四半期毎の排出量の集計結果を社内開示。 ②造作材プレカット・省梱包化・養生材の再利用の検討と実施。 ③段ボール等の有価材取引業者の拡大を推進。 ④現場分別の徹底策の立案・実施。 | 造作材プレカットによる削減効果の為、今後も継続。 2020年度より造作材省梱包化開始における削減効果を図った。 |
| | | 産業廃棄物最終処分量の削減 ・2020年度達成目標(棟あたり排出量を2015年度比20%削減)に向けて各施策を推進。(新築工事) | ①各拠点別に四半期ごとの集計結果を社内開示。 ②分別の徹底と有価材取引業者の拡大。 ③リサイクルルート(中間処理場)の開拓によるリサイクル率の向上。 | ・中間処理場の新規採用によるリサイクルルート開拓の継続と研修・勉強会において分別再徹底の注意喚起を実施。 |

環境性能・価値の創出

| 環境目的 | 中期目標(2020年) | 2020年度目標 | 2020年度実施計画(具体的な内容・方法等) | 2020年度の実績 |
|--|------------------------------|---|---|---|
| 【環境デザイン】 環境総合設計の実施を目指します。 | 環境設計ガイドラインに基づく環境設計提案の継続実施 | 環境設計の推進 ・環境設計ガイドラインシート活用推進 | ①環境設計ガイドラインシートの更新 ②運用手順の確立・試行実施 | ・環境設計ガイドラインに基づき環境設計の業務フローを確立 ・試行拠点における環境設計提案および体制を強化 |
| | | 環境に配慮した生活スタイルの提案 ・エクステリア環境配慮提案『Smart Gardens』の普及推進 | ①『緑のエントランスを創る』植栽提案の推進 ・植栽提案のためのツール、フローを設定 | ・『植栽パッケージ提案リーフレット』を活用した提案の実施 ・拠点における試行など、成功事例の展開 ・庭木のお手入れ方法「GREEN CARE HANDBOOK」配布による啓発活動の実施継続 ・顧客向けオンラインセミナーの実施 |
| 【住宅の省エネルギー】 居住時のCO ₂ 削減を目指します。 | 専用住宅居住時のCO ₂ 排出削減 | 2030年39%削減(2013年度比)に向けて居住時のエネルギー使用量削減対策の検証と実績値算出 ・エネルギー削減効果の把握 ・高断熱・省エネ・創エネ技術の普及状況の調査と目標に対する普及促進の検討 | ①「エネルギー消費性能計算プログラム(住宅版)Ver.2.2.1」(国立研究開発法人建築研究所発行)に基づいた、高断熱・省エネルギー・創エネ設備の普及率によるエネルギー消費量削減率調査。(2013年度比) ②ZEHビルダーのZEH普及目標に基づいたエネルギー削減率目標の立案 ③高効率設備のベストセレクション仕様設定による普及 | ・エネルギー消費量削減率:35%(2013年度比) ・ZEH率:53% |

住まいの長寿命化

| 環境目的 | 中期目標(2020年) | 2020年度目標 | 2020年度実施計画(具体的な内容・方法等) | 2020年度の実績 |
|---|---|--------------------------------------|---|---|
| 【維持管理システム】 キープウェル住宅・60年間の定期点検とメンテナンス実施の普及を目指します。 | 長期優良住宅を含むキープウェル住宅オーナーへのメンテナンスプログラムの普及促進 | メンテナンスプログラム普及率の向上 ・2020年度目標普及率95% | ①長期優良住宅以外への対応のためメンテナンスプログラムを改訂 ②担当者向け勉強会の推進 | ・メンテナンスプログラム普及率:98% |
| | | 補修・点検システムの整備・推進 | ①各種研修等での教育訓練による意識付けとスキルアップを図る ②点検報告システムの整備とメンテナンス提案力の増強を図る | ・業務研究会等実施し、計画達成の為の分析・教育・管理方法の確認と情報共有を図った。 |

環境負荷の少ない企業活動

| 環境目的 | 中期目標(2020年) | 2020年度目標 | 2020年度実施計画(具体的な内容・方法等) | 2020年度の実績 |
|------------------|--------------|---|---|--|
| 【事業活動による環境負荷の低減】 | 継続した省エネ活動の推進 | オフィス、モデルハウス、工場等での省エネ推進 ・MHオフィス等削減率(2009年度比)11% ・MHC全工場削減率(2010年度比)11% | ①オフィス・モデルハウス・工場等におけるエネルギー使用量の把握 ②不要照明の消灯・空調の適正運転・省エネ機器の導入 | ・MHオフィス等:36%削減 ・MHC全工場:3%削減 |
| | | 自動車エネルギー使用量の削減 ・MH燃費改善(2014年度比)7% | ①燃料使用量および燃費計測の継続 ②社内通達による安全運転の啓発、削減活動の推進 | ・MH燃費改善率:15% |
| | | ・MHC燃費改善(2012年度比)11% | ①工場から施工現場への構造材輸送距離短縮による燃料消費量削減 ②施工現場での荷降ろし待機時間削減による燃料消費量削減 | ・MHC現場への納材に係る燃費改善率:3% ・MHC調達にかかる燃費改善率:29% |
| | | ・MHT燃費改善(2012年度比)12% | ①低燃費車(ハイブリット車等)の導入推進 | ・MHT燃費改善率31% |

[略] MH:三井ホーム株式会社 MHC:三井ホームコンポーネント株式会社 MHT:三井ホームテクノス株式会社